

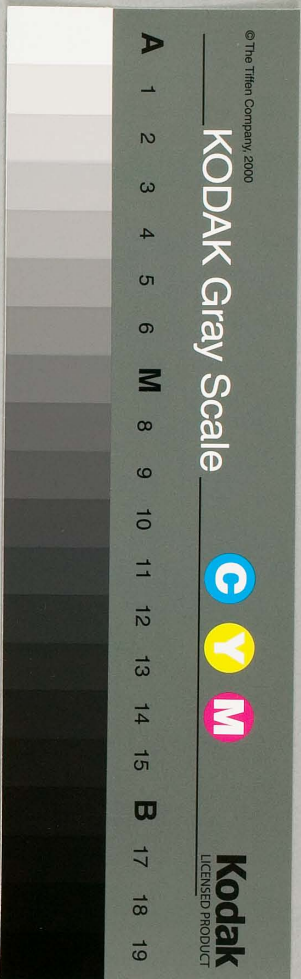


攝津名所圖會

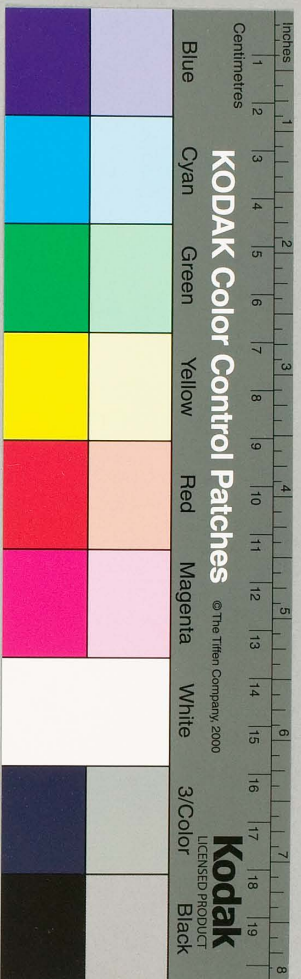
看馬郡  
能勢郡



221.6309  
Ak  
9



0440





攝津名所圖會

看馬郡  
能勢郡



291.6309  
Ak  
9



攝津名所圖會

有馬郡

有向神社

有馬山

有馬温泉

一之湯 二之湯

報恩寺

念佛寺

極樂寺

天満宮

若福寺

若福寺

池之坊

池之坊

地神嶽

殊殊花泉

有馬富士

妖湯

安藤亭 十二景

杉谷行宮

菩提院尚蹟

圓仁阿闍梨塔

有馬川

高橋

温泉神社

六景詩歌

温泉寺

愛宕洞

清涼院

豐盛塔 尊志塔

蘭若院

古釜の伝説 陀堂銘

林溪寺

施薬院

鼓籠

有明櫻

白石瀑布

鳥地獄

洗月湯

高家清水

豊太郎北政所旅館

有馬古城

礪石

茂茶山

湯槽谷

武庫川女子大学図書館
291.1.207
AK
11.20.98 9





卯木谷  
 功地山  
 舟坂川  
 彦頭谷  
 牛頭天王  
 生瀬川  
 獨鈷水  
 鉄冢  
 月見橋  
 最明寺殿塔  
 竹者山  
 松原古城  
 車瀬強見  
 大場山  
 瑞寶寺  
 小多多溪  
 抛岩  
 二神祠  
 猿首岩  
 教行寺  
 鹽田川  
 鈴羊谷  
 太子堂  
 愛宕井  
 箭射寺  
 車瀬古城  
 猿尾山  
 船坂  
 四十八ヶ瀬  
 生瀬驛  
 淨橋寺  
 鹿尻坂  
 名壽鷄卵紙  
 鹽田八幡  
 鶴佛巖  
 地藏堂  
 愛宕祠  
 烏帽子岩  
 三田營  
 弓場山  
 若照寺  
 屏風巖  
 生瀬古城  
 八幡宮  
 公智神社  
 平田茶師  
 振鷺瀑  
 儀籠  
 天神祠  
 車瀬川  
 三田祠

心月院  
 羽東山  
 裾野  
 志龍寺  
 志原神祠  
 觀音堂  
 左神宮  
 嫁御  
 報恩冢  
 永澤寺  
 氷柱岩  
 赤松嶺  
 三輪神祠  
 羽東里  
 相生松  
 稻荷神祠  
 野上觀音  
 末窟  
 判官松  
 菩提寺  
 墓畔冢  
 母子邑  
 荒塚  
 日出坂嶺  
 二ツ池  
 吉山池  
 香下古城  
 連理枝  
 怪兒神祠  
 御所冢  
 天神祠  
 長坂笑姿  
 同皇太后塔  
 角山  
 志原峠  
 千丈寺山  
 酒壺神祠  
 平松嶺  
 欣勝寺  
 香下寺  
 松古城  
 與勝寺  
 儀冢  
 賀茂神祠  
 觀音堂古迹  
 琴彈坂  
 善林寺  
 天王城  
 駒室佐八幡  
 三園山  
 二本松峠



筒井

須古池

女丈石

能登殿篁竹

水簾

長尾神祠

天王祠

八王子祠

奥藏寺

旗立石

長阪一本松

十五社祠

三條古観

天狗巖

唐櫃神祠

三本松

石足窟

二ツ岩

唐櫃神祠

多門寺

姥谷

深戸飛石

水無瀬瀑布

有野川

風城嶺

勢郡

善福寺

鷹岡山

御玄猪餒調貞

朝川寺

長桑塔

走落神社

小玉神祠

余野神祠

深里井

余野古城

影引松

九頭森

石坊茶作

遊仙寺

瀧谷観音

龍王石

牛頭天王祠

法論寺

大台山

龍王石

牛頭天王祠

法論寺

高代寺

野間石

野間神社

地黄第

野間石

真如寺

信春氏塔

歌垣

清普寺

倉垣里

名月峠

松王見重塔

倉垣川

茶師堂

名月峠

名月峠塔

園明神祠

能勢家包塔

潮井

鬼王團之布塔

園表塔

能勢家包塔

大路次溪

平石

曾我祠

能勢藏人第

一華州

名春土益

宿聖古城

久佐佐神社

蓮善石

梵字石

下通

能勢藏人第

蓮善石

蓮善石

寶塚

能勢藏人第

蓮善石

蓮善石

山色祠

月峠寺

能勢藏人第

梵天王祠

脚木摺峠

酌子嶺

抄子岩

栗極川



赤瀨  
 吉村古城  
 今西古城  
 彩宮祠  
 長谷古城  
 極簡祠  
 御門第  
 研ヶ岩

桑柘古城  
 洞雲寺  
 山田川  
 多田家  
 三艸山  
 地蔵堂  
 取金坑  
 神人爲奈磨

織田七ヶ湯尉力戦舊蹟  
 貴希彌祠  
 湯小屋祠  
 龍地笏古迹  
 法山寺  
 義經陣所  
 斤山古城  
 圓家

岐尼神社  
 九頭祠  
 龍王嶽  
 六所権現  
 上杉古城  
 五頭祠  
 名壽標炭

松津名所圖會



ひくし有馬山の領主  
 如れ山の中  
 仙人足跡  
 仙女おのり  
 仙女おのり





竹細工  
多師

有間温泉寺



ま本  
林の付花乃  
時々成  
有間の里  
ゆゑん  
あつ  
ゆゑ

十二場外  
三階切  
多



有馬郡

有馬郡 東海道の郡。界小至。北に播磨、南に美作、西に備前、東に備後。郡内、北に丹波、南に紀伊、東に和歌山、西に淡路。郡内、北に丹波、南に紀伊、東に和歌山、西に淡路。郡内、北に丹波、南に紀伊、東に和歌山、西に淡路。

有馬山 日本紀、風土記、引く曰、有馬郡、鹽原山あり。山、向ふ、塩原山あり。是、名づくこと、云、湯山の町、名十七、城屋二十、字、旗舎八十、餘箇所、志郡都會の所、あり。交易の甚人多し。

有馬郡 有馬郡、山あり。山、向ふ、塩原山あり。山、向ふ、塩原山あり。是、名づくこと、云、湯山の町、名十七、城屋二十、字、旗舎八十、餘箇所、志郡都會の所、あり。交易の甚人多し。

有馬郡 有馬郡、山あり。山、向ふ、塩原山あり。山、向ふ、塩原山あり。是、名づくこと、云、湯山の町、名十七、城屋二十、字、旗舎八十、餘箇所、志郡都會の所、あり。交易の甚人多し。

有馬郡 有馬郡、山あり。山、向ふ、塩原山あり。山、向ふ、塩原山あり。是、名づくこと、云、湯山の町、名十七、城屋二十、字、旗舎八十、餘箇所、志郡都會の所、あり。交易の甚人多し。

出題 飛鳥井大納言雅重卿

畫 圓滿院御門跡祐常大僧正

外題 隨自意院准之后公道法親王兼

序 從六位下九条少進大中臣朝臣典貞

跋 渾成精舎松岡雄剛

鼓籠松風 近衛攝政左大臣内奉之

有明櫻暮望 九條内大臣道基之

子枝二月曙雲開在沼東風緩郁未

為足溫泉洵美地春花鏡壁異郷僧

巧地山移月 飛鳥井大納言雅重卿

麻の香もふけり衣守の巻月のまを結わ月ひけのさけさ

落葉山夕照 四辻大納言公博卿

有馬六景之詩歌色紙 溫泉神社 奉納

賢賢



為業之山名故奇斜陽風景更堪思

懸知勝地常多賞最在丹楓滿墜時

溫泉寺晚鐘

閑院太宰師典仁親王

伊く星の暮おとろく参聲ゆるんか春待てくといふあひの待

有馬富士岩

九條左大臣尚實公

東海芙蓉元等名之峰子茶名甚佳

何特為浴溫泉者好極南山北秀榮

以上六景の詩并に皆みゆり作深草一ゆひたか

有馬溫泉

湯の町の中心あり泉脈より十四里大坂より九里浴室  
一字湯槽の傍に三尺八寸横の屋敷を文式又寸壁の長サ  
對して大石を築き石の間に竹筒を横に其の中より  
沸泉を時鐘しく潮水の如く室内に中分より南向と一之  
湯といふ北の二之湯といふ

日本紀曰

舒明天皇二年秋九月丁巳朔乙亥幸于攝津國有間溫泉

冬十二月丙戌朔戊戌 天皇至有間溫泉

同帝十年冬十月辛酉有間溫泉宮是歲新羅百濟任那

並朝貢云云同帝十一年春正月乙巳朔壬子車駕還自溫

湯乙卯新嘗蓋因辛酉有間以闕新嘗云云

孝德天皇大化二年冬十月甲寅朔甲子 天皇幸有間

溫泉左右大臣羣卿大夫從焉十二月晦 天皇還自溫泉

而停武庫行宮 武庫ハ地名也

心もまきつゝれもあはれなきを先づふ都をぞと

宇治 茶全政百

有るふを問ふ月久ぬ月毎く出湯の末も水まきまき

後成

わひやくふらりそね病を何れあり候の湯へりや

それは温泉其性温和より夜砂の氣分常く味鹹潮の如く

はるく天地を清の造物を鑑ふふ五氣あつて其氣の發所ふ

従つて寒熱温冷の差別あり地氣も又これ小均一凡そ地中乃

接陽通する所あり是ふ嬰まきまき脈かあはれ熱く温泉をたか



乃後法通むる所の温泉とありけ温泉病疾ふよめく必驗あり  
驗るた其症小齟齬と爲て一緊小論を爲くは能く專血脈  
涸下焦灰煖を氣なりて痛冷と爲る是は温泉乃的驗之  
中善驪山の温泉小等しく本朝温泉の冠る曾國島へは始て  
は鹽湯と爲れ釋日本紀そのうち厩后ひきや 舒明帝あなめり又 孝德帝  
もたにりなりの其初宮の古は今杉谷と云俱小越前は温泉  
年と思ふ事已小く又 聖武帝の時時僧正の基昆陽池の側  
往來しゆたを念の病者の例と曰われ熱身小魚瘡を生じされと  
患する事年あり傳算是より北方小處に有馬の山間温泉あり  
願ふを誘引く入浴さしめたりなり基昂の病者小背  
負く事小あり温泉小入るゝむ病者又曰は瘡瘍五疳小蔓く焦  
爛と肉中小虫生じて痒な事甚なり上人は我膿血と舐りて吸  
たりぬぐり苦惱を忍ぶるなり 仍基是と云ふに厭ひぬるに病ま

惡瘡公悉く瘰癧と事なり其時は念念金龜莊嚴に佛跡と  
現ト若哉くおされ温泉山の茶師佛へ上人の精誠を  
試んが爲小帳に病軀とありと云已つて東雲小茶師東方小苑  
去り入り基感歎止ばりて希如法經公書寫し泉底小理と又等  
身の茶師の尊像を并て山簾小一字公達とこれと安んずるの  
茶師堂されへの病まふとらとて 殊魚と昆陽池小放ちるゝ忽  
獲つてく一周の金魚とあるは山之神あり 二曰湯山権現茶師佛  
入浴の病者速小平愈むる事ありぬるは神佛の加彼力ふよる  
義德元年丁丑の天淫雨と降り洪水と出明一家と溺を其年より  
九十五年の後大和國吉野の傍高宗寺の仁西上人紀州慈母山小瀆と  
一夕爰小権現の沛若あり攝別有馬の山間小温泉あり近茶荒廢日本  
往く事興まへ仁西の曰はせりて其の證とむるや神の曰庭樹乃





















有馬 湯水の  
 入城 毎季三月  
 二日 小岡山  
 ひ基中興  
 仁西  
 支所  
 の本係  
 と願ふ  
 のまぐ  
 浴をすそ  
 山中の  
 寺傍坊中  
 の令供養  
 して初年の  
 係をありは  
 町々温泉ふ  
 瀬(半根)て  
 び載とるる  
 因即安なり  
 あへー



常喜山温泉寺

有馬湯山あり真言新義  
末師智徳院小属

本尊薬師佛

長丈六初は傍心仍基の依りゆり長そ尺の蓋佛と  
彌士日院月院柳弘法大師の化十二神將ら運慶恩慶の化  
類は茨壁山本庵和尚著

丈嵩より傍心仍基の同基其後建久二年仁西上人再管次

中興の同祖と冠之の後に正年中豊大阿北政所今のくを興

のし什寶の春日神相傳の佛舍利平相國法盛書寫の法義經

龜山院表鏡の法義經繪詞傳二卷辞ら延寶元年十二月子種三位

源朝臣書一の画の持神永納之有馬六景宗玄客券合書符券一卷

あり詩を序跋の著者 毎峯正月二日同山僧正中祖上人の兩像成

温泉の浴室小供奉一入初の儀式あり同月八日村民堂内小集會

しくお禮一牛王寶下と洞入吉成慎例とて當寺の記ハ初メ

温泉の記ハ粗足へり

愛宕洞

茶師堂より八町許山上小あり系神系師愛宕山権現乃  
御座る毎峯七月廿四日夜愛宕火く取来ぬ

報恩寺

温泉の東方小報恩愛宕山の真言新義  
温泉の東方小報恩愛宕山の真言新義

本尊不初明王

覺彼上人の化 長式尺八寸 聖徳太子像 法像作自他  
遠く年中の建立之又入湯の向合おの禁好若生記

同基仁西上人

遠く年中の建立之又入湯の向合おの禁好若生記  
日所小あり攝山山光明院と称

念佛寺

淨土宗鎮あり  
安ら糸の化 同基岌覺上人

本尊阿弥陀佛

長式尺八寸 淨土宗 芙蓉山  
茶師堂の東方小あり淨土宗 芙蓉山

清涼院

温泉寺奥院と称  
佛殿小 地藏堂 地蔵寺ハ定期の化元禄十四年四月  
腰内より十二神と化佛の地蔵寺廿一解 慧心坊尊惠塔 當寺小  
出たこれより安養寺地蔵とて

本尊釋迦佛

安ら糸の化 同基岌覺上人  
當寺の押の方小あり元正十七年豊大阿北政所今のくを興

平相國法盛塔

當寺の押の方小あり元正十七年豊大阿北政所今のくを興  
豊大阿北政所の法義經繪詞傳二卷辞ら延寶元年十二月子種三位

豊大阿北政所

當寺の押の方小あり元正十七年豊大阿北政所今のくを興  
豊大阿北政所の法義經繪詞傳二卷辞ら延寶元年十二月子種三位



原當寺ハ初基の開創アリ一寺二院の其一ハ所謂蘭若院  
施業院善提院ト入浴の貧民世之院トテ扶助を信涼院ト  
昔の菩提院之中祖ハ慈心坊尊意トシ人初ハ敷寮アリテ  
法善ニ昧成修一厥后ハ辺郡信澄寺トシテ梵行ヲ精修シテ  
温泉トシテ到リ林密出遊あるを觀ク微妙の畫區トシテ  
錫杖止先為小法善と稱シ時小義安二年十二月廿二日蘭羅王利生  
安民の爲小十萬の衆僧を聚テ法善十弟邪融通ヲ預命成修以  
尊意上人と信シテ廢讚導師トシテ修法洗小畢ク蘭王偈を  
心々持經者公讚以今近隣の左卿葬送の時六道然と止メテハ偈文を  
妻子王位財眷屬 死去無一未相親  
常隨業鬼繫縛我 受苦叫喚無邊際  
上人ハ小喜んク授メ我日域小平相國入道淨海トシ人あり攝別  
私田御崎と稱ク利益少クハ蘭王曰彼相國ハ天台慈惠僧正乃

後身アリト佛法擁護の爲今相國トシテ乃ハ偶々奉賜セラル  
上人曰貧道後世何事の新小生せんや蘭王曰師の徳去流リテ流の  
ゆく信素高シ精修苦リシテ福助無量之希冥官小令トテ簿と  
索先勸驗ハハハ曰當小休小養テ終テ讀シハ爲奉一百一千  
一萬六千七百十四部經文讀シ奉二千二百十卷念佛六百七十一  
四萬遍又自讀誦シ奉所の法華之萬六千七百五十四部一般若教誡  
品讀般若品雜信品授量功德品等唱誦シ奉凡テ二萬一千二百  
卷如足の入福業あり奉奉報盡シ奉ハ則兼四天王衆奉生ト  
クラン蘭王乃ハハハ書シ奉金字の妙經文讀シテ曰日本國小淨土の  
梵宮あり昂法澄善及ハ温泉トシテ又曰温泉山ハ則釋迦業師  
觀音進化的淨刹アリテ諸の衆生の爲小ハハ佛ハ利濟シ奉病苦  
ある者ハ地地小到シ業師佛と禮シ温泉小沐浴シ現生小疾と治シ奉  
のハハハ次未來世小遊シ奉必著提と證シ上人ハ小喜んク小寶殿と



嘗て妙經を藏せり寶佛と號し法華會と號して後世禪刹と爲り近來

心月和尚住して芙蓉山の派下と爲り上伽藍開基記 撰大意

極樂寺 日所茶師堂の東小あり 津土宗鎮

本尊阿彌陀佛 長上人の化 開基願譽上人

圓光大師自畫額 洛東の寺小あり 當寺寶一の寶品あり 圓融院淨宇 天元二年 勅法と

火除觀音 元禄年中 當山田祿の時 火中 燒殘り 今其後 江別

極樂寺の額 多蓮院二品法親王

天満宮 湯山小の方 天祥山小あり 圓融院淨宇 天元二年 勅法と

蘭若院阿彌陀坊 天神山の側小あり 金湯と号す 本尊阿彌陀尊 開基の化存像 長を尺六寸

當院初に開基僧芳岡基より一寺三院の其一之中興仁西上人

爰窓國師と云に來り始住りし 後宗を奉じて法隆堂を建營

のし其時の勅宣を足利義隆及び牧代 將軍家の喜捨文と藏す

堂よりくぬのをり登り小多やりのありと云ふやせん

みづ佛の澤古入止と云ふは下品ありと云ふべし

今まそ極樂ありの堂ののり登りてぬせだく 萬葉集卷

其外什寶は 後土御門院古亦と藏りて 洞書の清藤吉伝大長真宗

の經書あり 切基菩薩の鍬杖あり 南蠻金十二體 燈西

古金 和尙の形容異體あり 秀吉公當院小遊ひ 今時 祇園西

利休と云ふは 和尙の形小あり 利休小舎

今小當院小竹本あり 世小の法隆堂と 銘に竹金の端院の

金は 櫻靴と云ふは 又天正十二年 豐太閣 北政隆の喜捨文

あり 其み小曰 淨をくくすうと云ふは 子又百受つう 地をすの

斗まは せん百石つうつをその通りさうおらふましくいれ

天正十二年二月八日 禪宗曹洞

光徳山若福寺 有馬蔭茶山の麓小あり

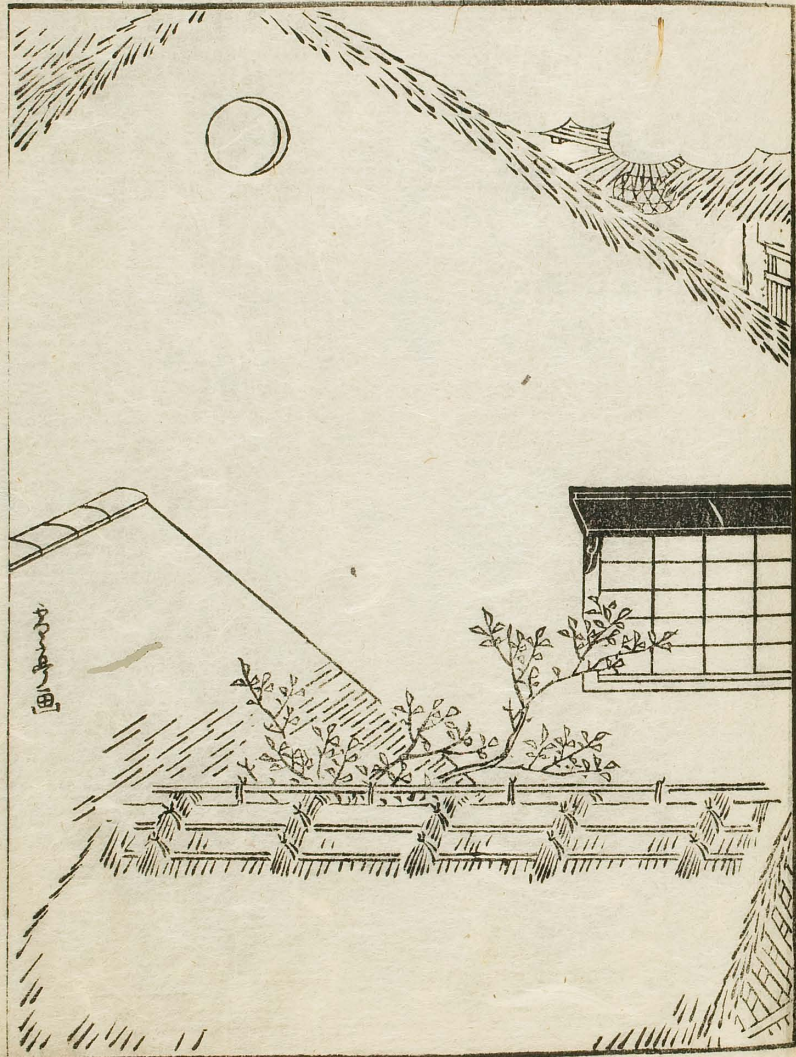
本尊阿彌陀一光之尊佛 長者阿彌尊 佛記曰 東天竺毘舍離國 月蓋

長者阿彌尊 佛記曰 東天竺毘舍離國 月蓋



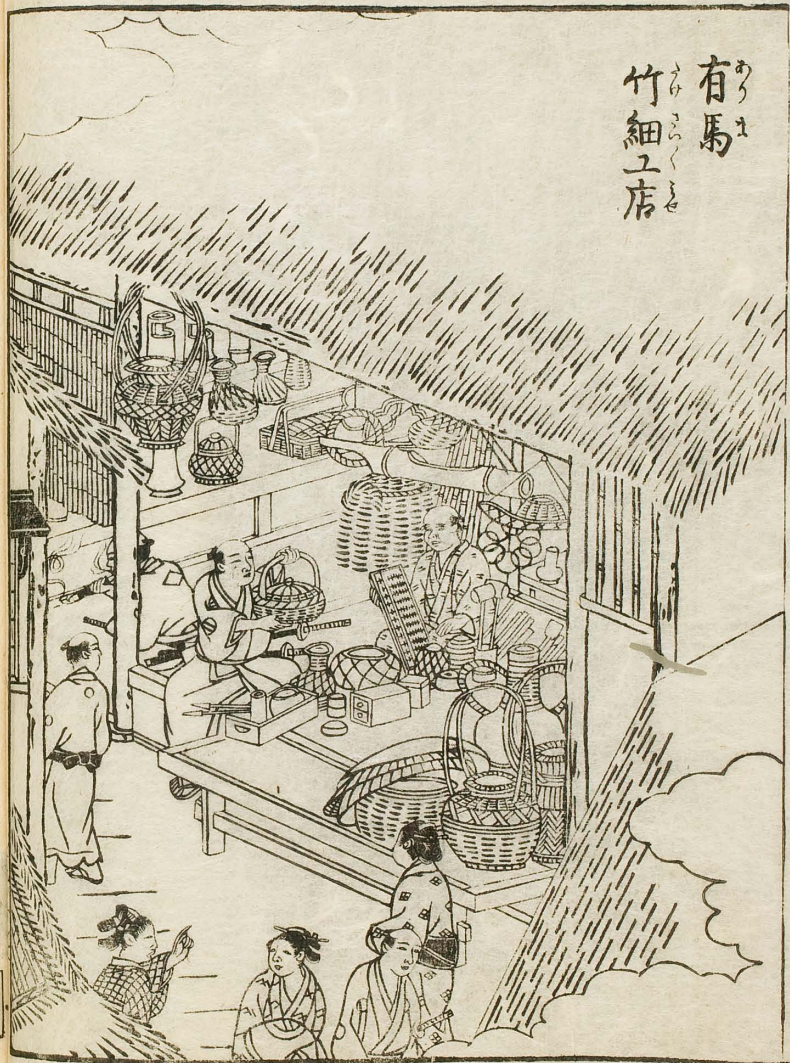




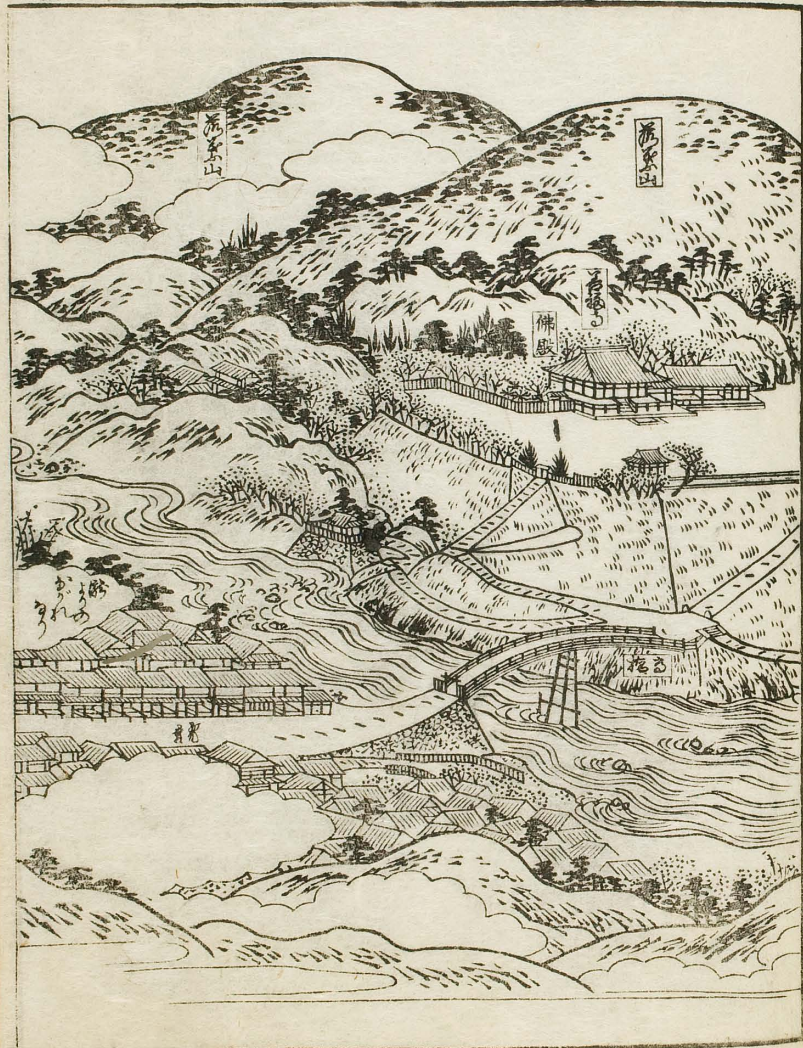


竹細工

有馬  
竹細工店







有馬  
善福寺

源山  
佛  
郭公  
湘南

源山

源山

三田







鼓カ龍リウ

湯中より八町許浦小ありけ返巨巖多く一々窟クツ空クウ虚キョに

山サン洞ドウのツ窟クツとチちチ中ナカにニ供キョウ水スイのノ洞ドウとシ也ヤ

遠トウ手テ園エンはハみミ、湯のノおオ杖シヤウ小コ

藤フジ書ショ

有ウ明メイ櫻オウ

湯の若小あり、花盛入湯の旅客、紅ベニ糸イトとシ、

幽ユウ巖イハ賞ショウをヲ又マタけケ、丹ニ柵シヤクもモ多タし、杖シヤウ紅ベニ糸イトとシ、

あアてテやヤふフ有ウのノ極キョクあアりリとト指ササ小コ句ク入イ曙シヤウ乃ノ月ツキ

斑ヒラ牛ウシ

地チ神ジン嶽ツク

由ユ縁エン不フ詳ショウ

珠シュ滝ツキ

鼓カのノ真マコトありリ、湯ユのノ真マコトありリ、湯ユのノ真マコトありリ、

白ハク石シヤク滝ツキ

湯ユのノ真マコトありリ、湯ユのノ真マコトありリ、湯ユのノ真マコトありリ、

地チ獄ツク

湯ユのノ真マコトありリ、湯ユのノ真マコトありリ、湯ユのノ真マコトありリ、

必カナラ死シするル、湯ユのノ真マコトありリ、湯ユのノ真マコトありリ、湯ユのノ真マコトありリ、

有ウ馬バ富フ士シ

湯ユのノ真マコトありリ、湯ユのノ真マコトありリ、湯ユのノ真マコトありリ、

有ウ馬バ富フ士シ殺シヤス茶チャ屋ヤ小コ艾アイ蓉ヨウ生セイにニりリ

籠カゴ島シマ

妬ニヤ湯ユ

湯ユのノ真マコトありリ、湯ユのノ真マコトありリ、湯ユのノ真マコトありリ、

羅ラ山サン文ブン集シュ曰イハレ

妬ニヤ湯ユ此コノ湯ユ善ゼン治チ瘡ソウ湯ユ泉セン之ノ傍ホウ數スウ十ジュウ步ブ在ニ、湯ユのノ真マコトありリ、湯ユのノ真マコトありリ、湯ユのノ真マコトありリ、





ありま  
有馬

ありまが  
滝

ありま  
有明橋

ありま  
一夢

ありまの  
鼓

ありま  
花夕



明目湯

羅山

洗湯善治眼疾湯在溫湯谷之側其形如  
湯昔伊井諾神行築紫橋而何處不在水哉然夫  
以洗目湯謂之橋小戶之支流亦有何害乎夫  
有數眼有肉眼有佛眼有千夫眼不見不見而  
天眼也仙眼也佛眼也利界如法眼也上見而  
者九眼也道眼也觀心者肉眼也今此湯洗而  
目耶洗眼也一洗淨開眼者奈何若有明此金  
要開眼洗眼試淨開眼者奈何若有明此金  
視不察者必義開眼者奈何若有明此金  
文王之見也圖者氏之也道有虞氏之  
視者顏子之也觀者氏之也道有虞氏之  
其瞬子孟之也觀者氏之也道有虞氏之  
哉不以湯也况外藥乎然則如何哉  
以讀書一雙眼外藥乎然則如何哉  
誰道三年曾患一消滴眼  
流道三年曾患一消滴眼  
明月清風眼海中

高塚清水

湯山小あり有馬三名水の其一と  
名義

羅山文集曰  
湯善治眼疾湯在溫湯谷之側其形如  
湯昔伊井諾神行築紫橋而何處不在水哉然夫  
以洗目湯謂之橋小戶之支流亦有何害乎夫  
有數眼有肉眼有佛眼有千夫眼不見不見而  
天眼也仙眼也佛眼也利界如法眼也上見而  
者九眼也道眼也觀心者肉眼也今此湯洗而  
目耶洗眼也一洗淨開眼者奈何若有明此金  
要開眼洗眼試淨開眼者奈何若有明此金  
視不察者必義開眼者奈何若有明此金  
文王之見也圖者氏之也道有虞氏之  
視者顏子之也觀者氏之也道有虞氏之  
其瞬子孟之也觀者氏之也道有虞氏之  
哉不以湯也况外藥乎然則如何哉  
以讀書一雙眼外藥乎然則如何哉  
誰道三年曾患一消滴眼  
流道三年曾患一消滴眼  
明月清風眼海中

安藤亭十二景

安藤亭十二景  
安藤亭小懸在温湯谷之側其形如  
温泉寺境  
湯山小あり有馬三名水の其一と  
名義

温泉寺境

温泉寺境  
温泉寺境  
湯山小あり有馬三名水の其一と  
名義

湯尾歸樵

湯尾歸樵  
湯尾歸樵  
湯山小あり有馬三名水の其一と  
名義

茵苧尾月

茵苧尾月  
茵苧尾月  
湯山小あり有馬三名水の其一と  
名義

杉谷行宮

杉谷行宮  
杉谷行宮  
湯山小あり有馬三名水の其一と  
名義

豐太岡北政所

豐太岡北政所  
豐太岡北政所  
湯山小あり有馬三名水の其一と  
名義

菩提院旧地

菩提院旧地  
菩提院旧地  
湯山小あり有馬三名水の其一と  
名義

圓仁阿闍梨塔

圓仁阿闍梨塔  
圓仁阿闍梨塔  
湯山小あり有馬三名水の其一と  
名義

有馬古城

有馬古城  
有馬古城  
湯山小あり有馬三名水の其一と  
名義

礪石

礪石  
礪石  
湯山小あり有馬三名水の其一と  
名義

有馬川

有馬川  
有馬川  
湯山小あり有馬三名水の其一と  
名義

高橋

高橋  
高橋  
湯山小あり有馬三名水の其一と  
名義

有馬川

有馬川  
有馬川  
湯山小あり有馬三名水の其一と  
名義

高橋

高橋  
高橋  
湯山小あり有馬三名水の其一と  
名義



湯槽谷

湯山若福寺の上方小あり由縁赤小足より一名投本山又の名

卯本谷

湯山若福寺の上方小あり由縁赤小足より一名投本山又の名

大場山

湯山若福寺の上方小あり由縁赤小足より一名投本山又の名

蜂尾山

湯山若福寺の上方小あり由縁赤小足より一名投本山又の名

弓湯山

湯山若福寺の上方小あり由縁赤小足より一名投本山又の名

功地山

湯山若福寺の上方小あり由縁赤小足より一名投本山又の名

秀岩有馬山

湯山若福寺の上方小あり由縁赤小足より一名投本山又の名

新の年

湯山若福寺の上方小あり由縁赤小足より一名投本山又の名

入来

湯山若福寺の上方小あり由縁赤小足より一名投本山又の名

一の湯

湯山若福寺の上方小あり由縁赤小足より一名投本山又の名

これと

湯山若福寺の上方小あり由縁赤小足より一名投本山又の名

去庫

湯山若福寺の上方小あり由縁赤小足より一名投本山又の名

聲喧

湯山若福寺の上方小あり由縁赤小足より一名投本山又の名

遊具

湯山若福寺の上方小あり由縁赤小足より一名投本山又の名

の田

湯山若福寺の上方小あり由縁赤小足より一名投本山又の名

をう

湯山若福寺の上方小あり由縁赤小足より一名投本山又の名

と我

湯山若福寺の上方小あり由縁赤小足より一名投本山又の名

瑞寶寺

湯山若福寺の上方小あり由縁赤小足より一名投本山又の名

瘤

湯山若福寺の上方小あり由縁赤小足より一名投本山又の名

湯山

湯山若福寺の上方小あり由縁赤小足より一名投本山又の名

湯山

湯山若福寺の上方小あり由縁赤小足より一名投本山又の名

湯山

湯山若福寺の上方小あり由縁赤小足より一名投本山又の名

湯山

湯山若福寺の上方小あり由縁赤小足より一名投本山又の名

湯山

湯山若福寺の上方小あり由縁赤小足より一名投本山又の名

湯山

湯山若福寺の上方小あり由縁赤小足より一名投本山又の名

湯山

湯山若福寺の上方小あり由縁赤小足より一名投本山又の名

湯山

湯山若福寺の上方小あり由縁赤小足より一名投本山又の名

湯山

湯山若福寺の上方小あり由縁赤小足より一名投本山又の名

湯山

湯山若福寺の上方小あり由縁赤小足より一名投本山又の名







船坂 船坂村成り仁上人温泉再興の事あり

善照寺 日村小あり

本尊阿弥陀佛 金銅像七寸寛正元年七月廿日播磨

久米村長光寺の住持必意坊鑿造小より出観の遺像あり

舟坂川 水原武原より舟坂を遠く

小多々漢 水原武原の山中より流るる山趾を繞り

四十八瀬 小多々川船坂より生瀬小至る五十所の間みか河原より

扇風巖 四十八瀬の半より舟坂の方小あり高五丈餘の大岩石小

座頭谷 四十八瀬の中小あり土人云む盲人湯治の温泉に對り

抛岩 四十八瀬の邊にあり山腰に懸る石の懸り

生瀬驛 船坂及び有馬湯山街道

生瀬古城 生瀬村小あり所傳云二本番次第築

牛頭大王 日村小あり此所の二神祠 日村小あり系井伊勢

浄橋寺 日村小あり十方寺を辨次

本尊阿弥陀佛 長丈六寸郡官法三希頼綱入道蓮生法師の念持伴之

名種 尚小あり法然上人漢別の配所より

宇都宮蓮生塔 蓮生法師日村小出家の長徒六十四人之云

極樂橋 尚寺あり生瀬川の橋小あり故小生瀬川の橋小極樂橋

生瀬川 水原小橋極樂橋より流るる會生瀬小至る

常盤入道 茶太政大臣

...

...

...

...



積首岩 積首村のあり岩勝樹小加く願のゆたの所小眼耳真口成

鹿皮阪 生願より名塩への切路小あり備作兼成入くあに尋

八幡宮 名塩村のあり兼神山別男山りの勸修之は地の生土神と次

獨鈷水 日村小あり一名戸窪清水といひ清水ありて明鏡の如し鏡日

教行寺 日村小あり俵土真宗本尊阿弥陀佛

名産雞卵紙 名塩名山口村等の村民これ製て諸國へ入

公智神社 功地小あり延喜式出登敷今天王と称次山口中野

錢塚 山に村小あり坂上小石條の地蔵あり傳云山口氏少

鹽田川 水深川辺郡波豆川又三田川と會一塩田川往く塩田川とい

鹽田八幡 塩田村小あり兼津石清水享保元年別當信谷之坊玉蔵院

平田業師 平田村小あり平田業師傳り

月見橋 塩田村小あり傳云

瑞溪 日記日

岩龍 東有振鷲瀑一葉溪之源也峭壁百丈形似

如緑而下若遇暴雨則高飛流可以稱振鷲

之千名嶺谷偶曰不入羚羊谷爭知掛角菴懸

崖千萬嶺獨撒手急須參大像猶是我兒孫

堅怪石唯獨尊嘉州一像猶是我兒孫

瑞溪 日記日

瑞溪 日記日

瑞溪 日記日

瑞溪 日記日

瑞溪 日記日

瑞溪 日記日

瑞溪 日記日

瑞溪 日記日

瑞溪 日記日

瑞溪 日記日



温泉  
幕湯圖



有馬











画訂友

有馬筆の世に名  
 高くは地を  
 一箱固く  
 半多し其  
 中  
 小器の  
 人形あ  
 らぬ  
 ちれど  
 ぬきぬ  
 のちり  
 ぬきぬ  
 ぬきぬ



九ノ二十九



鳥帽子岩

山田村鑿射の邑小あり

車瀬川

三田小あり二田川とて川水瀬川出坂乙原の山崩より出く

車瀬虫見

三田城下車瀬橋の辺に初夏より雲霧生じく水面とてく

送ひ子の位くつむ虫つか

流水

つむむれ表と這るる虫つか

源菴

まゝとりあ涼涼一飛ぼる

牧堂

車瀬古城

三田小あり有馬氏累世より居城と

二田營

慶長年中に平藤長吉に討た城下の町名五個丹波播磨の

二田神祠

三田村小あり古城下

心月院

三田村小あり信濃山と號す

三輪神祠

三輪村小あり宗神和別三輪神の勧進

吉山池

三田村小あり信濃山と號す

欣勝寺

三田村小あり大栄山と號す

本尊釋迦佛

佛殿の傍に茶作堂あり什寶ふ牧堂系の親世

最明寺櫻

三田村小あり寺説云最明寺入道とて止住し植玉

羽東山

三田村の上あり一名香下とて山嶺高嶺形尖りて

秋の月

秋の月とて月此の月とて月有の月とて月とて月

匡房

舟末船

舟末船とて舟末の舟とて舟末の舟とて舟末の舟

羽東里

香下村とて羽東里とて羽東里とて羽東里とて羽東里

香下古城

香下村とて古城とて古城とて古城とて古城とて古城

小籠城

香下村とて小籠城とて小籠城とて小籠城とて小籠城

香下古城

香下村とて古城とて古城とて古城とて古城とて古城

小籠城

香下村とて小籠城とて小籠城とて小籠城とて小籠城

香下古城

香下村とて古城とて古城とて古城とて古城とて古城

小籠城

香下村とて小籠城とて小籠城とて小籠城とて小籠城

香下古城

香下村とて古城とて古城とて古城とて古城とて古城

小籠城

香下村とて小籠城とて小籠城とて小籠城とて小籠城

香下古城

香下村とて古城とて古城とて古城とて古城とて古城



香下寺

香下村の管内に東山の山あり又鹿吉小作  
二田城鬼門擁護の祈禱所也

奉尊十一面觀世音

立像二人寸 教達帝十二年 百海國日羅道者  
向基あり歸け山中の靈木成依り尊傍

御座の相共小同本成り 羅羅の依り靈木成依り尊傍  
御座の相共小同本成り 羅羅の依り靈木成依り尊傍

二年若勝至徳二年の流記を藏す  
寺小正平八年二月の國宣康安二年山林四至定限之文永永

裾野

香下村あり同郡尼寺村の有馬富士の系勝あり  
裾野の相共小同本成り 羅羅の依り靈木成依り尊傍

相生

日村あり松の太サ三尋あり  
相生の相共小同本成り 羅羅の依り靈木成依り尊傍

連理枝

日村あり松の太サ三尋あり  
連理枝の相共小同本成り 羅羅の依り靈木成依り尊傍

秋ふささとの系たさかて我もさか枝と成りん

松山古城

日村小田蹟あり信三松山之山を左城の跡也  
今小城跡現存也

青龍寺

福徳村あり西方中を号次 聖武帝の冲内り基傍正  
向基畿内は十五院の其一也

奉尊業師伴

日光 月光伴 十二神將成安  
貞観元年真如法親王當寺小入つてそれより入庵し又又

稲荷神祠

福徳村あり信三の生土神也  
真言宗の傍に祀る也

怪児神祠

日村の 大池 二箇所あり一は福徳村廣サ七百畝  
一宅原村廣サ八百畝

道祖神祠

休田村の路傍あり神跡あり長尺幅を人符の  
板五枚小五大尊と畫く石俵後壇成築り是れ也

奥務寺

高次村あり  
高次村あり 高次村あり 高次村あり

奉尊釋迦佛

當寺向基細禰上人の當郷の人壯齡あり  
件系小禰入り遂小髪を薙て山居し本實

志原神祠

志原村あり  
志原村あり 志原村あり 志原村あり

野上觀音

東邊上村あり奉尊如意滿觀音安次赤代の古佛小  
東邊上村あり奉尊如意滿觀音安次赤代の古佛小

仰新冢

日村田圃の中あり上古高貴の荒塚也  
日村田圃の中あり上古高貴の荒塚也

儀家

由縁不詳  
由縁不詳 由縁不詳 由縁不詳



観音堂 東末村小あり十一面観音公安快寺新不洋村民一字公  
造立に奇代の古御あり相好微妙之今小靈應頼ふり  
毎月十七日近郷より群俗

末窟 東末村小あり地と掘石公築て掘穴とるたもの三十餘角所あり  
其中小又ひひりあり中席下二階と造つて祈禱あり  
又後へ通く河原あり土人云むり神代小大雨あり

天神祠 東末西末の末村小あり系神天備神村民早慶の村社  
祈り神興と祈ふつて多る時あり次雨降申奉驗  
法雨天神といひ

賀茂神祠 賀茂村小あり系神別雷神山別賀茂神成御佳次  
日所の生土神

太神宮 例祭五月二日  
日村小あり系神六咫太神地生土神

判官松 依り地小神道標と一り小故小一名枝柳松といひ枝葉  
栄く年と累る半尺て六百餘年之標の中行く人の住居とも  
ありととて行やうて女衆の願の形あり

長坂怪兒 賀茂藍村の中向  
長坂の地小あり

観音堂古迹 井澤村小あり寺号由緒分明あり古蹟方二町許乃  
麓とあり今以て坪は深りのありを忽崇あり  
土人云むり寺に龍宮城より將來の禱あり寺院退燈の時  
播州へ龍宮城の禱法は是と云

菩提寺 薙髮の後當院小あり故に寺村といふ  
花山法皇の所奉創又皇后

花山法皇廟 當寺 同皇后塔 日所小  
花山院皇后御供に菩提寺に入中一初の新に

琴 彈坂 日村小あり 花山院皇后御供に菩提寺に入中一初の新に  
琴と彈トて所遊あり

報恩家 日村小あり  
由緒小あり 暮畔家 日村小あり  
由緒小あり

青林寺 青地村小あり 青葉山と号し真言宗  
向基ハ慈心房尊意上人あり

本尊毘沙門天 立像六尺許あり七堂伽藍の基地ハ丹波國  
多記郡高城の城の稱禱祈之天正年中明智日向  
高城と攻め附尚寺より山傳ひ小密不無糧と送る後とて利あり  
終小密不無乃大明智其内通成悪く當寺を放火其時密一  
如燼とみたり本尊ハ女笑と鬼と後の山林小飛をり存在  
中故小入に至りて曼荼羅熾たりと伝たり不靈應頼之又尊意上人  
冥府より將來の曼荼羅熾尚寺の  
宝藏小ありく什物と云

井澤村小あり土人云むり此所の村民の昔は深淵と云ふ所の  
姑は小川に遊り月旦の相許と極小ありこの所の側小おびた  
村老傳ふる嫁御と云く  
水小尻りといふ

花山法皇廟 當寺 同皇后塔 日所小  
花山院皇后御供に菩提寺に入中一初の新に

琴 彈坂 日村小あり 花山院皇后御供に菩提寺に入中一初の新に  
琴と彈トて所遊あり

報恩家 日村小あり  
由緒小あり 暮畔家 日村小あり  
由緒小あり

青林寺 青地村小あり 青葉山と号し真言宗  
向基ハ慈心房尊意上人あり

本尊毘沙門天 立像六尺許あり七堂伽藍の基地ハ丹波國  
多記郡高城の城の稱禱祈之天正年中明智日向  
高城と攻め附尚寺より山傳ひ小密不無糧と送る後とて利あり  
終小密不無乃大明智其内通成悪く當寺を放火其時密一  
如燼とみたり本尊ハ女笑と鬼と後の山林小飛をり存  
中故小入に至りて曼荼羅熾たりと伝たり不靈應頼之又尊意上人  
冥府より將來の曼荼羅熾尚寺の  
宝藏小ありく什物と云



有馬 細見 惣圖

雷士



堀川百首

けしげま  
 くるけだ  
 くのぬ  
 いま  
 石門の  
 塩湯  
 えん

有馬





青原山永澤寺

母子村あり

本尊救世観世音

皇后の御飯依佛なり

後圓融院奉

南基通幻禪師

深くは小龍池當寺あり傳之南基通幻和尚

堂外小あり和尚者をも問ひ對しては成佛なり  
堂内女あり和尚は善提の道に示し  
大いふ處にそれなり和尚は解脫の法に示し  
和尚の者小同く云はし眞の女人小ありは内の中  
龍女あり和尚は龍と化して其形をめぐりしと稱く  
遺文と授けり人龍と化して其形をめぐりしと稱く  
酒の空に飛去りしと稱く

支永澤寺の南基禪師の名

寂靈辨へ通幻といふ終陽乃

勇士何某氏の子

一説因別稱婦の人永澤家あり其母初め子し

清水寺の觀者松

二百日限く善門品千巻紙修に遂に

妊身と成其臨産小

忽没しぬ父悲傷し已に古廟の側よ

瘞ひ厥后性來の人

輒もとまへ廟中小嬰兒の聲を聞其父

あまは廟侍て

涙を流た楯を是れを赤子已に誕に其父且る喜ひ

且つ愕く希懐と尋りて

沐浴をれを健繁芳潔の嬰子之祖母

これと養育する所

二葉あり父も亦没しぬ稍成長小及んぶ

嬰兒祖母小向て

曰人皆父母あり我獨孤とある半必何祖母

ありのゆと若る

幼兒健然とて泣下しつは不存ありて早

父母と喪入出家して

厥思ひを剛人祖母とひ小喜んで十一葉

の付台嶺小登つて

業を受天性英敏ありて凡て内外の経史

一々目と終まを

通曉せりとつ半あり座主及び衆僧みか

賞嘆は十四あり

菴發し禪門直指の説を慕ひ希徒登國

總持寺小往て

峨山嶺和尚小泰はけ嶺山へ永平寺五世の孫

なり通幻禪師小向て

曰何半とらぶんと欲に對て曰止觀の理小

於く所疑は未達せ

速小まは拈指示せ嶺山の曰忘想を

半かく便起去と

禪師疑ひ愈熾なり研究多し一日



嶮山心身脱落の語、峯忽然として大悟く云、我會せり、嶮山云、汝作麼生、禪師云、和尚人と瞞ざる事か、らん、心身脱落の時如何、倒小佛殿、小驕く山門と出、嶮山云、乱走とるか、事一、禪師云、羅籠とを、任は、喚とを、圓、次、押袖、一、く、便去、嶮山微笑、一、く、後、小、古人の、素、節、南、諸、龍、乃、慶、より、内、く、一、々、諾、向、次、禪師の、應、答、ある、低、小、流、向、が、ぬ、一、嶮山、滅、後、小、建、ん、を、檀、越、細、川、氏、禪師の、玄、化、公、軟、で、永、澤、寺、と、創、一、師、と、信、じ、く、南、山、と、は、年、毎、小、想、持、寺、す、兼、性、と、越、前、の、刺、史、中、信、小、於、く、龍、泉、寺、は、建、く、師、の、駐、錫、の、所、と、は、應、安、年、中、小、後、圓、融、帝、禪師、と、賜、く、天下、乃、僧、録、と、令、ど、あれ、り、洞、上、の、宗、大、小、時、汝、得、り、明、德、二、年、四、月、大、衆、公、召、て、誡、て、曰、我、去、て、後、汝、等、當、小、萬、緣、公、屏、息、一、く、一、大、事、汝、究、明、一、洞、上、玄、風、の、地、小、墮、さ、り、一、む、一、一、文、字、語、言、名、聞、利、苦

以會、有、せ、ば、吾、徒、小、あり、は、時、至、つ、く、已、小、吾、去、ん、と、歎、次、衆、み、か、遺、獨、汝、法、々、れ、を、師、書、し、て、曰、爾、淳、來、住、滿、七、十、年、轉、身、端、的、兩、脚、稍、大、拳、汝、擲、し、く、遊、次、龜、公、止、ま、半、三、日、貌、生、侍、の、ぬ、一、内、弟、子、龜、と、奉、し、く、寺、の、西、北、乃、潤、干、定、次、上、恭、録、の、大意

母子村 中莊十五村の中、永澤寺の通、幻、禪師、俗、姓、永、澤、氏、の、母、姪、身、て、戒、師、と、り、く、り、た、永、澤、寺、は、創、次、其、母、恩、を、報、ぜん、が、お、小、地、名、は、母子と林、次

青原峯 母子村小あり、永澤寺の山、群、り、た、據、り、り、さ、は、り、り、丹、波、小、林、村、の、西、小、出、付

天王城 母子村の、後、小、あり、され、も、丹、波、小、林、村、へ、出、付、大、坂、高、藤、橋、り、り、十、三、渡、り、神、勝、一、里、神、勝、り、り、小、溪、一、二、里、三、所、小、溪、り、り、生、次、一、十、一、町、生、次、り、り、二、田、一、三、里、十、六、町、二、田、り、り、母、次、一、四、里、母、子、り、り、天、王、城、す、り、り、六、町、あり

氷柱岩 小、嶮、村、の、後、小、あり、岩、の、形、氷、柱、小、加、方、り、り、名、と、は、

荒塚 下、青、野、村、小、二、ヶ、所、あり、何、と、は、姓、氏、と、詳、小、せ、ば、













雪亭画



有馬道  
四十八ヶ瀬







能勢郡

東海下郡界小至り西へは丹波郡界小至り  
御玄猪餼調貢 又御重玄猪餼能勢餼  
五戸より貢り中委の切細八戸より貢り  
元建武元年應永  
年向の御餼あり

神功皇后之韓と征り神陣の時皇太子應神と供奉し

あふ香坂王といふ垂道の人あり 國家に棄んて軍勢を催

皇后と滅さんて新く少く挑み我ひけふ中道駈身を既小然

まんとと為新小猪多く少く香坂王小飛や为王治方かくて大木

の梢小身猪多し其根と穿ゆりて歩倒し後小香坂王と喰

殺し永亡しりる 元是を中天下治り

後 應神天皇の 神一由は若例と

長く神猪の供 帝(皇)は二ツの支

共小排けなる願 年の向中絶し又

欽明帝元年 元年六月八幡宮神領と成

若法院支配 元年五月供御領の田園

二百貫と賜る官 應永二年八月十一日

あまのに宣今小存次大正二年織田兵乱の時供神の田園も荒廢し

神猪の調進も中絶しゆる百八代帝 後陽成院の御宇文祿二年

再貢ありて先規の例の如く調貢今小放りて

能勢餼製造 當家の四壁小齊竹と立り家宅と法先新築と布

赤豆小交り春餅を半 穀十粒と製造の役人のみかく後氏君

長サ六寸五分幅四寸厚サ八寸の籠小入赤豆の肉と煮りたるを

上小籠小切りて六ツ折りて籠小入赤豆の肉と煮りたるを

籠小入赤豆の肉と煮りたるを 籠小入赤豆の肉と煮りたるを

籠小入赤豆の肉と煮りたるを 籠小入赤豆の肉と煮りたるを

籠小入赤豆の肉と煮りたるを 籠小入赤豆の肉と煮りたるを

籠小入赤豆の肉と煮りたるを 籠小入赤豆の肉と煮りたるを

籠小入赤豆の肉と煮りたるを 籠小入赤豆の肉と煮りたるを

籠小入赤豆の肉と煮りたるを 籠小入赤豆の肉と煮りたるを



日本紀曰  
崇峻天皇五年冬十月四日有獻山猪云  
公事根原曰

承子餓内藤藤原朝餉少きあり十月五日飢  
食を病かしく奉親のつと後平河原よりそとみ  
延喜式不載これと姓古よりそあり多事おん  
あつて之外記頼重師尚を勅文とほりてそれ  
あつて外記頼重師尚を勅文とほりてそれ  
承朝のおとら

承子餓内藤藤原朝餉少きあり十月五日飢  
食を病かしく奉親のつと後平河原よりそとみ  
延喜式不載これと姓古よりそあり多事おん  
あつて之外記頼重師尚を勅文とほりてそれ  
あつて外記頼重師尚を勅文とほりてそれ  
承朝のおとら  
承子餓内藤藤原朝餉少きあり十月五日飢  
食を病かしく奉親のつと後平河原よりそとみ  
延喜式不載これと姓古よりそあり多事おん  
あつて之外記頼重師尚を勅文とほりてそれ  
あつて外記頼重師尚を勅文とほりてそれ  
承朝のおとら

貞徳の云  
行玄猪餅の事正親町公通卿説 淨湯殿記 其式委記  
長六尺脇士日光月花十二神將  
聖徳太子像 淨白化淨厨子 奉國高槻城主永井外記候の母と乃  
鎮守八幡宮 奉堂の南 疱瘡神 八幡社の南ありあに祈付時  
名木櫻 瑞寺内あり 浄世の盛みん 花香芳しく  
當寺ハ初 推古帝の淨願ありて上宮太子の景創之其時ハ伽藍魏々と  
して僧坊多し後世破壞して今坊舎三ヶ院のとん 古佛の毘沙門不初  
毎年十月淨玄猪潤賣の時ハ院主少く淨の淨加持とせり又早の年と  
雪の為小奉尊及び聖徳王と角鹿をれを忽膏雨降るといふ

如意山善福寺 眞言宗 小代村小あり  
奉尊藥師佛 長六尺脇士日光月花十二神將  
聖徳太子像 淨白化淨厨子 奉國高槻城主永井外記候の母と乃  
鎮守八幡宮 奉堂の南 疱瘡神 八幡社の南ありあに祈付時  
名木櫻 瑞寺内あり 浄世の盛みん 花香芳しく  
當寺ハ初 推古帝の淨願ありて上宮太子の景創之其時ハ伽藍魏々と  
して僧坊多し後世破壞して今坊舎三ヶ院のとん 古佛の毘沙門不初  
毎年十月淨玄猪潤賣の時ハ院主少く淨の淨加持とせり又早の年と  
雪の為小奉尊及び聖徳王と角鹿をれを忽膏雨降るといふ



毎来十月  
 亥子日  
 本代切御の  
 二村の結成  
 猪の祭  
 樹寒調集の  
 神功皇居沖附  
 とうぞろまう  
 とうぞろまう  
 とうぞろまう  
 とうぞろまう  
 とうぞろまう



友汀画

九四十二



鷹岡山 本代村小あり一名龍王古山といひ山頭小寺院あり毎年七月廿日愛宕火とて山上より火を焚け又火を焚くに西を松とて

あり古松ありとて龍王の靈験あり  
雨と祈ると應驗あり

小王神祠 再興祠小弘治三年糸禮式永祿元年修正會法則各一章嘉吉文明明應天文年中

施入文叔奉と風む

朝川禪寺 日向村小あり向陽山と号次禪宗明應永正年中の施入文

貝川長葉卿塔 日向村小あり方丈殿の石之表小傍に鶴貝川三位長葉卿ハ

走落神社 切畑村小あり延喜式出但郡小載ふは村の生土神

影引松 切畑村小あり土人云ひく松より光ありく四方を照らし遠方

その光の照るるのまじりたるに至るは石傍乃伴ありとて松の

影を引く松とて名に松法に記れり方ねり故に村

余野神祠 余野村小あり社額小あり一名幣本井といひ

水の色を愛ひて

余野古城 余野村小あり

瀧谷観老 余野村小あり山腰の瀧谷より出現の老像あり長三尺寸は是の

九頭象 日向村小あり神祠破壞して

石坊薬師 日向村小ありひく中山宗匠とて一字を創り中山宗匠寺

古墳碑石多し石の傍といふ半成あり

遊仙寺 余野村小あり朝日山と号次津土宗什實小兆殿司の

十六善神の画像あり

能勢山城守塔 高古小あり村古出郷の

天台山 日向村小あり海眼下に及り

龍王石 天台山の麓小あり堅三尺五寸許石上四より常小水あり

弘法大師は夢に至り加持しやひ八王龍王の牛王雲

牛頭天王祠 日向村小ありは所の生土神と相殿小八王龍王の神像を

山上の龍王石之毎年正五九月三節の神事と候し社務密供

法輪寺 日向村小あり院光明山と号次真言宗

本尊薬師佛 弘法大師の相長八尺七寸許古寺より龍王石の香水にて

押入る弘法大師の老いやく牛王雲宇と出次







七寶山高代寺

吉川村の北麓小あり真言宗  
佛舎三坊

本尊薬師佛

弘法大師の彫長八尺七寸脇士日光月光  
十二神將成安に

龜懸石

上方小あり  
北北川を郡後地

大墓

山麓の東小あり  
横壁の覆す所之安倍明光の地あり

温泉

山麓の南八町許  
蘇小あり

名産礪石

吉川の山沖より出る又蜀椒と名物と  
吉川長谷上校舎垣

寺名

名産礪石 吉川の山沖より出る又蜀椒と名物と  
吉川長谷上校舎垣

あり落慶

村上帝天徳二年の冬之其以殿堂寶塔巍々  
あり

一七女人の高野

と稱は今廢して終の古寺

能勢妙見洞

能勢村妙見山の峰小あり  
蘇六町一町毎小標石あり

本尊妙見菩薩

長八尺寸許右小劍と蓋持  
領主能勢氏より守り

は尊容故能勢氏人

妙見城の守護神之一説  
能勢氏城

の後家長の七士

は蘇の安間村小累年住  
りて守り又廢后安間

氏等執教

今この領主能勢氏の有  
りて小堂成建管

近年應驗

新ありとて系解大坂及び遠  
近の貴族者小治

向新

かく厄難病若小患  
つとめ小籠を懸小

嶮治

と終目上下して法華の題目  
を唱へ祈禱の聲多あり

族

一日法華とて智政宗小建  
ひありは領主能勢氏も日蓮

宗

ありを敬作奉く領地の  
村民も亦能門を並

活人の儀

平生法蓮の如

野向立石

野向の村中小あり  
只曆應四年の四字あり

野向窟

野向の山麓田圃の中  
小あり窟中深しむり

野向神社

地安村小あり延喜式  
曰今布留社と稱は野向地安の生土神に

地黄第

地安村の東山下小あり  
能勢氏累世あり居は能勢氏領の古城の

信常寺

地安村小あり日蓮宗  
領主能勢氏代々の菩提所

日蓮上人像

あり傍書曰元龜三  
の九月廿六日卒



道如寺 地蔵村あり日蓮宗 眞言地蔵院あり 徳勢坊は吉頼次 眞宗信作より 故不取 延山

日蓮上人像 日蓮の遺影 日蓮上人彫刻 岡眼の祖師 日蓮上人あり

七面明神祠 尚ふの上あり 毎葉 妙見尊 本堂の上あり 毎年 四月八日法會

歌恒山 柳岡のふ小歌恒山あり ひとく 男女はふに集登く 古恒山く

倉恒川 倉恒村あり 釋日本紀述 我小風土記と引く 日雄伴那 波比具

倉恒里 塔裏村のふ 古あり

阿倍泰氏塔 田尻村 古あり

松王兒童塔 日村小あり 傳云 平相國信盛去 藤原成龍く 難きた

松王兒童塔 日村小あり 傳云 平相國信盛去 藤原成龍く 難きた

大明神祠 音地村あり 系神 藤田老令

茶師堂 日村小あり 上棟文日 天文二十四年四月重修

名月峠 田尻柏原あり 名月峠石塔 刑部左衛門尉國基の女之容顏

名月峠 田尻柏原あり 名月峠石塔 刑部左衛門尉國基の女之容顏

徳勢家包石塔 日村小あり 建く 名月峠の父あり

潮井 二ヶ所あり 一は柏原村あり 一は陸村あり

鬼王園之希塔 柏原村あり 傳云 二人は海村の者より 岩我兄貴

曾我祠 日村小あり 鬼王園之希 主君小 諸國の抄の後あり

徳勢入道 柏原村

大路次漢 柏原村 舟の界 船中より 出く 大里 柏原 平通 下田尻等

大路次漢 柏原村 舟の界 船中より 出く 大里 柏原 平通 下田尻等

大路次漢 柏原村 舟の界 船中より 出く 大里 柏原 平通 下田尻等

大路次漢 柏原村 舟の界 船中より 出く 大里 柏原 平通 下田尻等

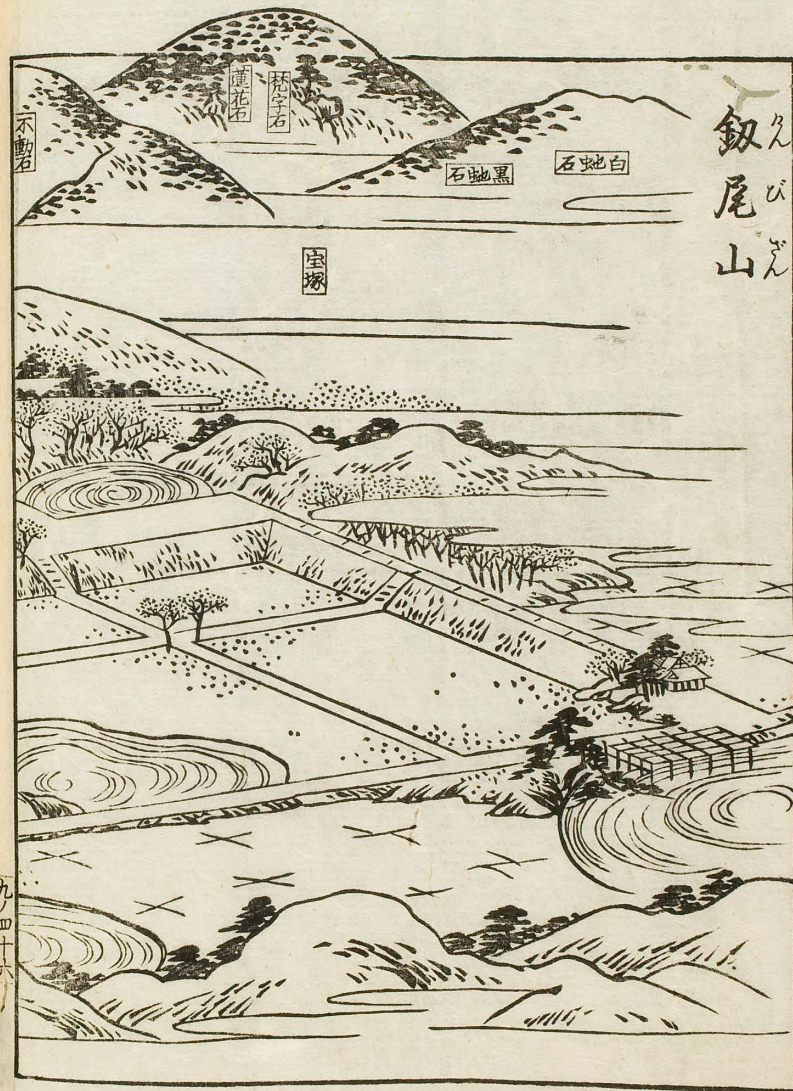
大路次漢 柏原村 舟の界 船中より 出く 大里 柏原 平通 下田尻等

大路次漢 柏原村 舟の界 船中より 出く 大里 柏原 平通 下田尻等

大路次漢 柏原村 舟の界 船中より 出く 大里 柏原 平通 下田尻等

大路次漢 柏原村 舟の界 船中より 出く 大里 柏原 平通 下田尻等







平石 上宿村あり 二テ所ありく一ハ口平石といハ一ハ殿平石とい

宿野古城 宿野村あり 傳之井内縁之進源系志主殿の古跡あり

後桑坊古蹟 日村あり 土人曰ひく文治建之の南都八佛殿再建

久佐佐神社 中宿村あり 延喜式出仕地の生土神とい

一善州 善州の神籬の中 生次第葉の著に似く葉僅に試討許

名存土鹽 宿野村より 出る日本紀曰 雄略天皇十七年三月 土師人

下樋山 大里村の上方あり 今就て

留有久波乎 若来此山伏下樋而届於神許從此樋内通而

清糸由是曰下樋山云云

東集集思娘子化經歌

劍尾山舊蹟 大里村より 五十町水の方山を村上方あり又中宿野より

不動石 山頂あり 岩面小不動石像を鑿むり日羅道人登山の時

蓮華岩 不動石の 梵字石 蓮華石の

靈池 山麓あり 梵字石 下あり

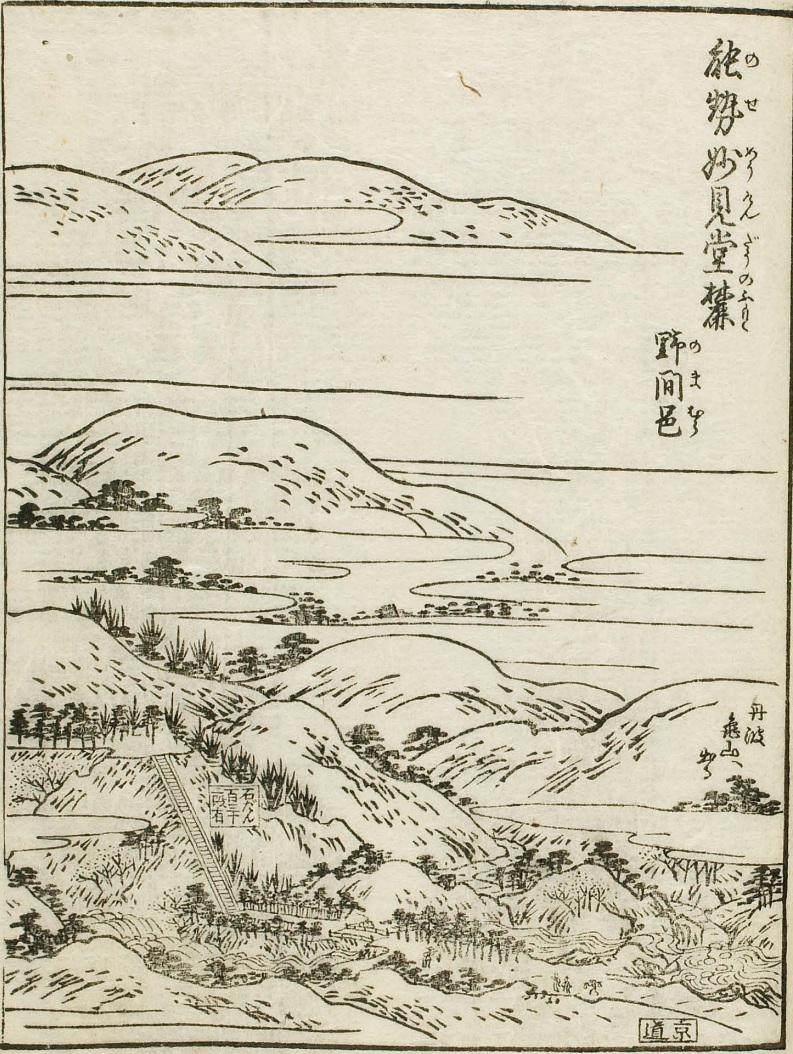
劍尾山月峰寺 日羅道人 眞言宗方山嶺小あり

奉尊十一面觀音 日羅道人 眞言宗の善持文あり

當寺南關 上宮太子あり 日羅道人 劍尾山小登山



岩上小端座一護摩成修するの村不動の利剣中より降下す  
 以へ劍尾山と稱し傍小香木榎本ありまきより爾淳樞金大悲の音容  
 出現し中より因茲榎岩と稱し千石の靈像より法光輝ゆふより  
 月峯寺と改む昂其香木を以て本尊と二軀彫刻し一尊をかくれ  
 安し初々出現の金像を骨中小籠る一軀ハ川を郡たす崎大覺寺  
 安益中から天文十四年十二月二日丹波八上城主波多野與兵衛尉は  
 地を棄てて當山小亂入して放火し煨燼と其より今乃地に  
 月峯寺と遷して下を稱し寛文四年禪宗若珠和尚山頭退耕の  
 地を再營して月峯本寺を建てしといふ天和年中又頽廢して  
 月峯寺一院と成り  
 純智藏人本居古述 以里村あり純智家包養宅の地と  
 村井右京亮古居 羽村ありは苗孫尚御小  
 山邊 祠 仲直作の徳安は昂太子初て神殿を管ゆいといふ



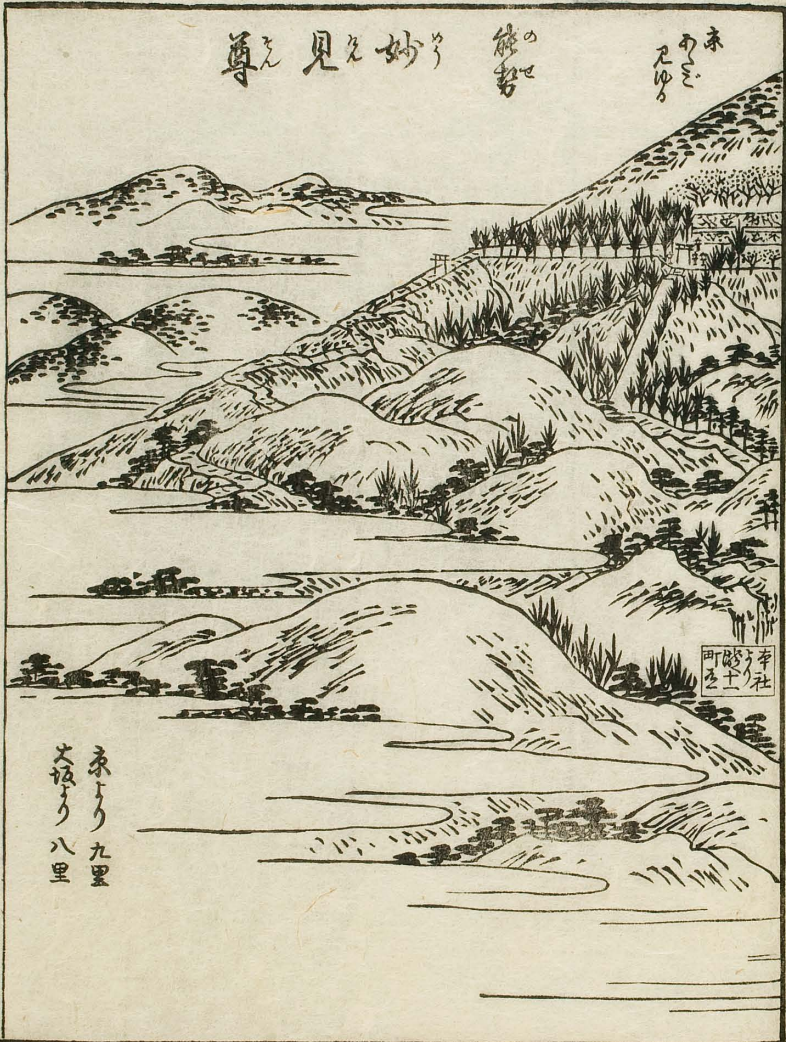
純勢妙見堂集

野間邑

丹波 鹿山



未  
中  
之  
妙  
見  
尊



未より九里  
大坂より八里

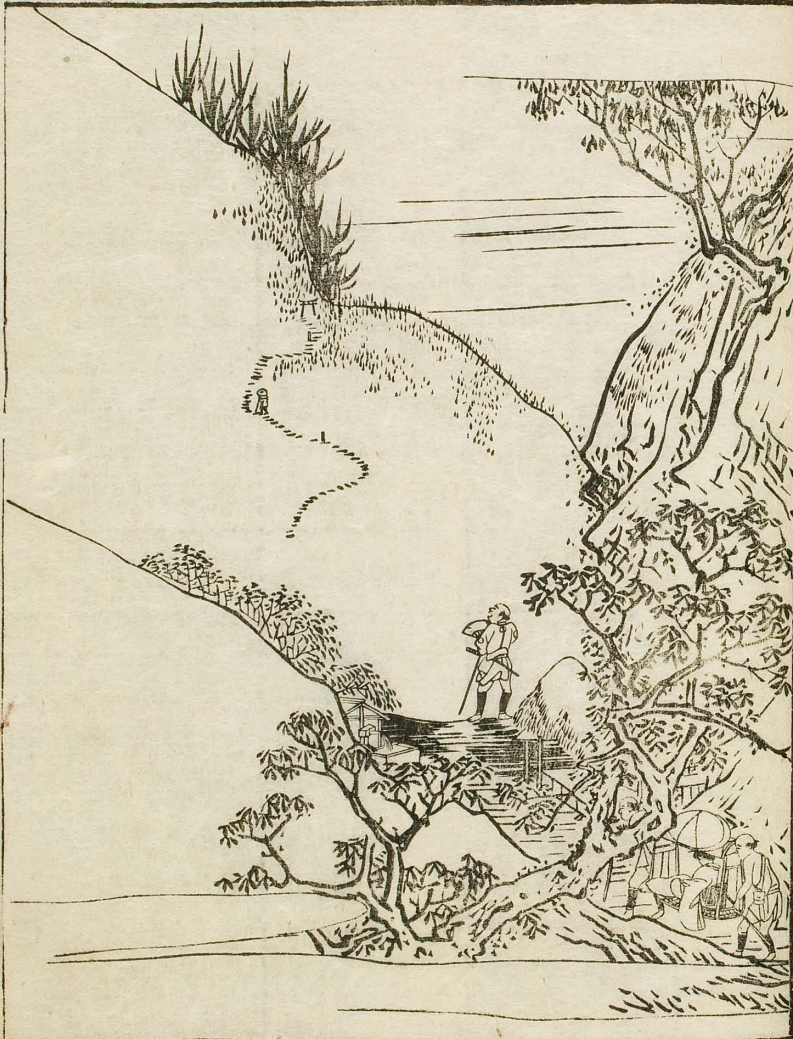


九  
四  
九









能智め見まら辺幸  
 雲驗新く日糸  
 月未の後八前歌か  
 糸昨大坂や講結  
 しくさくさ着けり  
 多し持小花魁優伶  
 の空急く信しと舞と  
 頼くまぬ見の一字小  
 と分とのねらんや

友汀画



今西古城 今西村あり傳云天文年中森平左衛門尉の長子築く

山田川 水原山田の山中より出く今西森上と流る

湯小屋祠 山田村の民家あり例祭の時岐尼神(神湯と稱す)云々

九頭祠 門村あり糸井瀬仲公退治を九頭大蛇の靈なり

新宮祠 神楽殿中の澤渡跡あり

多田家 稲地村あり傳云天文年中純勢小を希多田故城主佐別伯朝

石磨と從へちん押寄の純勢方森平左衛門公田帯刀六町右衛門

井内孫之進水原右衛門尉長谷一處等の寢竟の軍士數百人出く

稲地第古蹟 稲地村あり天文年中稲地伊賀

天神祠 稲地村あり伝云稲地生主神と傳云岐尼神天降り多入時

龍王嶽 長谷村の上方あり土人曰ひく八丈龍王出現の所一名

長谷古城 門村あり傳云純勢小を希家士長谷一貞居城の古迹

三州山 神山村の上方あり舊名鞍馬山と云風土記云鞍馬神初ノクハ

原山へは山寺の旧地あり四十九谷に四十九院の傳舎あり元龜乃

回福小塚山に遷次又元曆九年保平合戦の時平家の一門ノ谷に

籠り東軍の押して軍勢出張の古跡ハ丹波の界隈別清水寺乃藤

三州村ハ平家の津洲之戰跡の痕跡あり

東鑑云 桐手大將軍源九郎義經也 中畧 相從ノ軍勢都合二萬

餘騎也平家聞此事新二位中將實盛卿小松少將有盛已上

七千餘騎着于當國之草山之西源氏亦陣于同山之東隔三里

行程源平在東西

平家物語云 擲多の大將軍少九弟御曹司義経同伴人々ハ安田之弟義貞

之内太弟惟義村上判官代康國田代冠者信細侍大將より土肥

以弟實平子息弥次弟遠平之浦次義澄子息平六義村畠山左司

以弟重忠同三弟重清佐宗十弟義連和田小太弟義盛同次弟

義茂之弟宗實佐宗四弟高細同五弟義信然谷次弟直實子息

小次弟直家平山武者新季重次弟直經小次弟直實能原之弟

...





春泉画

大松明  
大松明  
大松明  
大松明





清益多々羅五郎義春其子太弟光武渡柳弥布信忠別府小太弟清重  
金子十布家忠同與一親範源八廣綱片里太弟經春伊勢二弟義盛  
奥州佐藤之布嗣信同四弟忠信江田源之德并太弟武藏坊存慶是  
等皆先々て都合其勢一萬餘騎同日同討小都を立て丹波清に  
懸て二日路と一日小打と丹波と播磨の境あり案山の東乃山口  
小部京小陣とを敷つる平家の方は大將軍より小松新之位中將  
資盛同少將有盛丹後侍從忠房備中守祚盛侍大將少伊賀平内  
を清信家海老布盛方とて其勢千餘騎とて案山の西に  
山口小推寄と陣と敷其表の成刻計小大將軍九弟御曹司義經侍  
大將土肥次布安重少将平家是より二里隔く案山の西に山口小  
大將をたて表討とてとて又明日の軍とて宣む田代冠者進出く平  
家の勢の千餘騎而方の沖勢一萬餘騎遙の初候明日の軍と延  
ら候とて平家小將附候とて表討好らんと覺候とてこれけとて

土肥次布やうも申さるる入田代殿式誰もを申さつれ表討よらん  
ぬも覺候と申されん兵ども勝さ圍一如何せん口々申あはは  
御曹司例の大續ね如何小と宣む土肥次布去来候とて小部京  
の在家小次を覺さうとて是と初て所もふも軍も本も  
火と懸れを晝少の兵と方とて二里の山とを越りけふ中畧  
平家の方より其表表討せんとは是と知らば軍は定て明日の  
軍とて有んぞらん軍も賊たの大半の物を独居て軍甘し者ま  
とて先陣の自用心とて共後陣の兵共の甲と槍と或は鎧の袖  
服とと槍とと矢後も知ると我困らるる其表の表平計源氏  
一萬餘騎二軍の山に押し合はしめしめとわあひあひ岩中と闘て通しける  
方より餘小陣の弓取者へ矢と知らば矢と取者へ矢と知らば  
わててとらたつる馬小當らしめしめとわあひあひ岩中と闘て通しける  
源氏へはり平家とてわとて不道無愛に退散散々に責められ矢場小



名月峰

名月と  
子も  
名刹  
秋乃  
月  
松泉



九十五  
ハリ

名月塔  
又  
園春塔  
能勢家包塔





古昔餘人討む。子負者共多かり。多。大將軍新三位中將資盛同  
か將有盛丹後侍從忠房。三章のち破る。面目ありと思はるん  
播磨の高砂より舟小舟。蒲坂の八峯。後給ひぬ。橘中守時盛討を  
何とてて。波さむひつらん。平内を清海。次弟言具と一谷を  
泰。これ。地。三。村。の。平。三。里。隔。三。茶。山。の。山。口。と。の。橘。別。法。水  
神山村あり。三茶山の巔にあり。蒲堂巍然と。一。傍。坊  
四十九。虎。あり。三。草。野。あり。

本尊千々親者

日羅感得の多容あり。時記云。聖徳太子の。隨從。日羅道者あり。時山頂小壺氣立。見く。三草の  
興。去。其。一。十。大。怨。化。現。一。十。村。も。跡。跡。初。混。妙。門。の。二。尊  
と。愛。化。と。日。羅。感。得。と。て。山。神。小。壺。々。々。の。神。場。と。言。ひ。三。草。山  
等。の。六。所。権。現。と。勸。法。一。て。鎮。守。と。り。里。の。名。を。神。山。と  
其。時。奉。為。次。守。と。飛。ん。く。蒙。の。叢。中。小。壺。坐。ま。は。り。守。傍。奉。時  
小堂に安坐す。今。の。神。山。村。小。移。り。

六所権現祠

神山村あり。六所の生土神と。又神山明神と。称す。

極向祠

神山村あり。社説曰。長保年中。治部大輔保滿。政之。論。八幡官  
の。神。修。成。彫。刻。一。又。餘。の。新。修。成。彫。刻。と。あ。り。に。神。山。村。に。奉。時

地蔵堂

日村あり。傳小云。む。り。基。菩。薩。諸。國。遍。り。一。と。六。十  
餘。の。地。蔵。と。造。一。一。國。に。一。軀。で。安。坐。の。小。堂。成。り。せ。り。

観音堂

地蔵堂の傍あり。今。慈。眼。寺。と。稱。一。と。禪。傍。守。傍。

判官義経陣所

上杉村。古。迹。あり。系。師。より。丹。波。流。成。廢。く。一。谷  
鴨。小。計。く。の。時。平。家。の。軍。勢。三。千。餘。騎。三。草

田代冠者

田代冠者と申。父。伊。豆。國。の。茶。園。司。中。納。言。烏。網。乃。末。茶

王子輔仁親王

王子輔仁親王に在。俗。性。も。杜。上。弓。矢。と。取。て。も。好。り。

山。に。出。張。し。け。り。ふ。ふ。り。く。義。経。將。く。ま。り。陣。一。田。代。冠。者  
信。綱。の。智。計。に。よ。り。平。家。の。陣。一。夜。討。一。大。小。勝。利。成。得。く  
一。穀。に。一。谷。一。押。寄。  
平。家。の。陣。一。夜。討。一。大。小。勝。利。成。得。く  
田。代。冠。者。と。申。父。伊。豆。國。の。茶。園。司。中。納。言。烏。網。乃。末。茶  
形。り。母。の。將。母。の。義。経。を。思。く。殺。つ。り。一。谷。母。方。の。祖。父。に  
禰。て。弓。矢。取。り。仕。立。り。俗。性。も。杜。上。弓。矢。と。取。て。も。好。り  
王子。輔。仁。親。王。に。在。俗。性。も。杜。上。弓。矢。と。取。て。も。好。り







古王仁從獻吾國風  
 鶴鶴帝經之啓之來都于茲王  
 氣聖哲心基此也遠如墨江神  
 廟荒陵梵刹難波梅片葉蘆已  
 膾炙人口其餘佳域名產不可  
 勝紀也亞相惜臨公由枉賜  
 冠玉於鄙稿光赫首簡終篇併  
 累鼓繁密總整矣 鮑生 又何跋

攝錄手入

耶是ラ以テ不レ辱シ強シ顏シ操シ芥ヲ於テ斑ニ郢ガ  
 之門而已矣

寬政丙辰之歲中秋

平安 籬岑菴里湘夕





皇都 秋里籬鳥先生著述  
浪花 竹原春朝齋圖畫

都名所圖會 六冊 都名所圖會拾遺 五冊

大和名所圖會 七冊 河内名所圖會 四冊

和泉名所圖會 四冊 攝津名所圖會 六冊

東海道名所圖會 六冊 糸の多 圖二面 二冊

伊勢路名所圖會 四冊 繪引節用集 一冊

編纂 九

寛政八丙辰年九月

皇都 小川太左衛門 殿 爲 八

書林 柳原喜兵衛

浪花 松村九兵衛

田村九兵衛

111111



